

防ごう! 子宮頸がん

一次予防 「HPVワクチン」

二次予防 「子宮頸がん検診」

20歳を過ぎたら、1~2年に1回

子宮頸がん検診を受診しましょう。



子宮頸がんとはどんな病気？

子宮頸がんは子宮の入り口付近に発生する「がん」です。ほとんど自覚症状がなく、症状が出た時には、かなり進行していることもあります。20代・30代の若い世代で急増しています。

▶ 症状

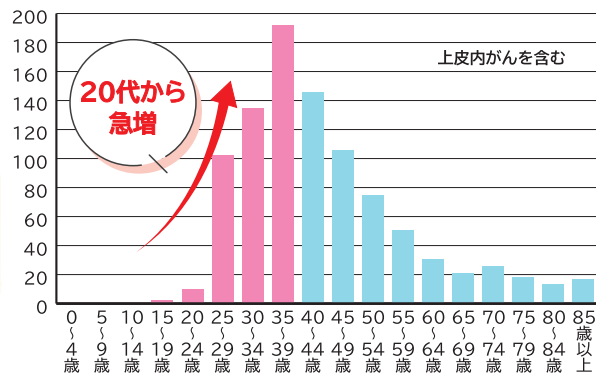
- ・月経に関係ない出血がある。
- ・茶色のおりものが増える、悪臭を伴う。
- ・下腹部や腰が痛む など

▶ 原因

主な原因は、HPV(ヒトパピローマウイルス)への感染です。HPVはとてもありふれたウイルスで、性交渉の経験が一度でもあれば、誰でも感染する可能性があります。

HPVに感染しても、多くの場合は自然に消えますが、一部は数年から数十年かけて、子宮頸がんになってしまうことがあります。

(人口10万対) 子宮頸がんが発見された人の割合【岡山県】



【出典】岡山県におけるがん登録2021

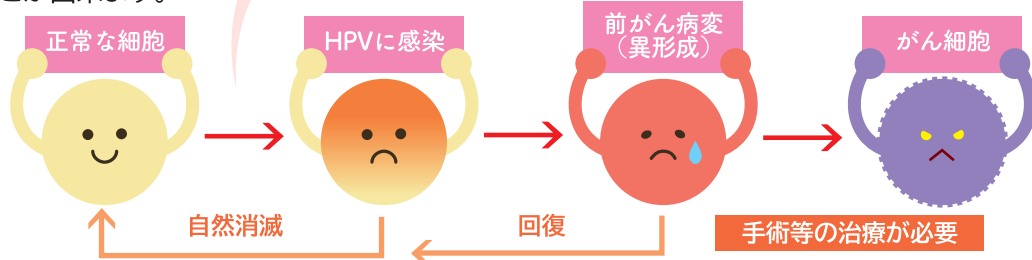
「子宮頸がん」の予防法は？

ワクチン(一次予防)と検診(二次予防)の両輪で予防することができます。

一次予防: HPVワクチン
感染そのものを防ぐ

二次予防: 子宮頸がん検診
がんの芽を早期発見・治療

子宮頸がんの
進行



一次予防「HPVワクチン」の接種

小学校6年～高校1年相当の女の子を対象に

子宮頸がん予防のための HPV ワクチンの公費による
無料接種が行われています。

対象の方は、お住いの市町村のホームページなどで確認しましょう。

二次予防「子宮頸がん検診」ってどんな検診？

一般的な流れ

①視診

膣鏡を膣内に挿入し、子宮頸部を観察します。

②内診

子宮の形、大きさなどを確認します。

③細胞診

ブラシやヘラで子宮頸部をやさしくこすり、細胞を採取します。



検診を受けるには？

職場で検診を受ける機会のある方

職場のがん検診を受診しましょう。

職場などで検診を受ける機会のない方

市町村のがん検診を受診しましょう。

一般的な検診までの流れ(市町村のがん検診)

①選ぶ

市町村からの案内(郵送)や広報誌、ホームページを見て、検診機関等を選ぶ。

②予約する

検診機関に予約する。

③受ける

受診券、健康保険証などを持って行き、検診を受ける。

市町村が実施する検診は、費用の一部を市町村が負担するので、**無料**から**2,000円**程度の自己負担で受けることができます。

市町村
お問い合わせ先

検診日時、費用などは、お住いの市町村へお問い合わせください。



検診で**要精密検査**となった場合、**必ず**精密検査を受けてください。

子宮頸がんは予防できるがんです。HPV ワクチンに関することも含め、詳しくはこちらをご覧ください。

